

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームはあと
所在地	東温市田窪2054-1
自己評価作成日	平成 27年 10月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 12月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>健康管理が行き届いている。 職員が真面目に努力し、精一杯対応していて好感が持てる。 精神面・健康面をトータルでサポートしてくれる。 家庭的でさびしくなく、穏やかに過ごされている。 環境も良く落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>私鉄電車の最寄駅を挟んだ母体法人の病院近くに開設され4年目を迎えた。事業所周辺は神社や寺の多い歴史ある地域で、近くの寺院で毎月開催される縁日への参拝は恒例外出行事となっている。協力医療機関でもある母体病院と、系列グループホームの相互協力により運営されている。周辺に住宅は住宅地ではないが、運営推進会議を活用して地域からの理解が得られるよう努めている。また、看取り経験も多く、24時間体制での医療連携や緊急時の迅速な対応は心強い。今後も、これまでの経験を活かし真摯な姿勢で取り組んでいく方針である。年間計画に沿った事業所内研修を充実させており、外部研修へも積極的に参加することで学ぶ機会を多く取り入れ、職員教育に力を注いでいる。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはあと

(ユニット名) A館

記入者(管理者)
氏名 光田 陽子

評価完了日 平成 27年 10月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 一人ひとりの個性を尊重し、地域に密着した生活を支援していく事を理念とし、地域に密着したグループホームを目指す事をあげている。	
			(外部評価) 法人理念を職員の話し合いで見直し、「共に生きる、一人ひとりの気持ちを大切にする、きめ細やかな健康管理、地域の交流を大切にする」とした。入職時に管理者から説明され、日々の業務や毎月のミニカンファレンスで共有されている。理念を中心に全職員が同じ方向を向いて実践できるように意識統一され、理念の中から課題を見出し特化した取組みを実践したり、年間の振り返りを持つことで次年につなげる意欲的な運営ができています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地方祭、敬老会、文化祭などの地域の行事に利用者と共に参加したり、来訪により交流を持っている。管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声掛け合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるように日常的に努めている。	
			(外部評価) 事業所近隣は商業施設が多く、ご近所付き合いには困難な面もあるが、地道な活動を継続させている。今年度は地域交流を広めることを課題とし、運営推進会議の参加者に協力を得ることで改めて事業所の運営に理解を求めることができた実感している。外出時には地域施設を活用したり、地域行事に積極的に参加することで交流が広がっている。今後も事業所としてできることに取り組みながら、相互協力関係を深めていきたいと望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 認知症に対する介護方法や理解などの相談にいつでものれるようにしている。ボランティア、研修の受け入れ体制がある。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議で出た貴重な意見を取り上げ、管理者や職員間で 話し合い、サービスの向上に活かしている。報告書は 会議参加者全員に配布している。	
			(外部評価) 利用者家族、地域区長、民生委員、地域包括支援セン ター職員、市担当者の参加がある。議題や行事に応じ て法人管理栄養士、製薬会社等の協力を得て、栄養管 理や家庭での医療等の講座を盛り込む工夫があり、有 意義な時間となっている。事業所での生活や認知症状 の理解を得るために、菓子作り等の作業を利用者と共 に行うことで体感してもらっている。率直な意見交換 や地域情報交換ができており、運営に反映させること でサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進委員会などで交流を持っている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会 議への参加を得ている。推進会議の機会を活用し、実 情を伝えたり情報を発信してもらっている。また市や 地域包括支援センターが企画する研修会へ積極的に参 加することで運営に反映させたり、他事業所との交流 の場としても良い機会とされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 職員間で身体拘束をしない方法での対応について話し 合い、常に身体拘束のないケアに取り組んでいる。 止むを得ない場合は事前にご家族に十分説明を行って いる。	
			(外部評価) 弄便や胃ろう破損等の行為のある利用者には、主に夜間 帯等の限られた時間帯でつなぎ服やミトンの使用があ る。事業所裏は郊外電車の駅で、安全を考慮し居室窓 やユニット間等の施錠がある。事業所では身体拘束に 関する勉強会を開催し、繰り返し学びの機会を設ける ことで正しい理解へとつなげる努力をしている。現状 について家族や医師と話し合い同意を得ている。	正しい理解を深めるために繰り返し学びの機会を持つ 努力ができています。現状について期間や代替策、見守 り等ケアの見直しをその都度行い、拘束を必要としま ないケアへとつなげてほしい。今後も定期的に利用者の 自由な暮らしとは何か職員間で話し合いや勉強会の機 会を通じ理解を深めて欲しい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修会に参加し学んでいる。制度内容はミーティングなどで説明したり、内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修などで学び、報告書を作成して職員に内容を説明している。内容書類を回覧して職員全員が把握できるようにしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、職員が詳しく説明をし、質問にも対応している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 利用者や家族さんからの意見や要望はいつでも受け付け、対応は管理者が行い計画担当者間で報告し合っている。	
			(外部評価) 利用者には日常の会話の中で意向を聞いている。家族等とは推進会議やカンファレンス参加時や面会時、電話連絡等の機会を利用して意見や要望を聞いている。事業所では新聞を定期的に発行し、利用者の日常生活ぶりや行事報告、職員の研修参加等学びの様子を家族等に伝え、理解が得られるように努めている。家族等からは率直な意見や苦情が聞かれることもあり、思いを真摯に受け止めすぐに対応することを心がけている。職員間で話し合いの機会を設けたり、介護計画に反映しケアの改善を行ったり、運営に活かすことができている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	<p>(自己評価) 定期的にミーティングを行い、管理者と職員間で話し合いをする機会を設けている。朝の申し送り時に管理者がそれぞれの意見や提案を聞く機会を持っている。</p> <p>(外部評価) ミーティングや日々の申し送りで職員は意見を出し合っている。管理者もシフトに入っているため、職員意見等については理解しており、業務相談に乗ったり気になる職員へはその都度声かけしている。また事業所内で解決しにくい運営課題については法人施設長に相談することができている。年間研修計画に沿い、積極的に学びの機会を設けることで職員のスキルアップが図れるように工夫している。</p>	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	<p>(自己評価) 職員同士がお互いに協力し合い、時には競い合って働けるような勤務体制を心がけている。職員それぞれの得意な分野が活かせるようにしている。</p>	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	<p>(自己評価) 法人内外部の研修会に積極的に参加し、報告会を持っている。研修資料は全員が目を通し、レポートを書いている。</p>	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	<p>(自己評価) 各種講習会や勉強会には積極的に参加し報告会を開いている。外部研修の受講時に同業者と交流を持ち、他のホームの取り組みを参考にしている。</p>	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	<p>(自己評価) まず本人の話をよく聞き、相槌を打ち、こちらも理解している事を分かってもらうようにしている。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) サービス利用開始時に御家族に十分に説明し、不安や要望などに耳を傾け、信頼関係を築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族の不安や心配事、質問や相談には迅速に対応できるよう心がけている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活全般に職員と共に作業をして頂くなどして協力して頂いている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 利用者の生活状況をご家族に伝えたりすることでコミュニケーションをとり、利用者を支えるという意味で信頼関係を築いている。毎月利用者の状況を手紙で報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事、イベントの参加など、ご本人やご家族から生活歴を聞き馴染みの場所等の戸の関係が途切れないようにしている。	
			(外部評価) 利用者が大切にしてきた関係について、利用者本人や家族等から情報を聞き取り、職員間で共有することにより把握し、関係を断ち切らない支援へとつなげている。家族の協力を得て外出や自宅に帰る利用者もいる。近くのお寺への参拝や生活歴、家族関係等に配慮した支援ができています。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格を出来るだけ把握し、より良いコミュニケーションが取れるよう食事時やミニデイ等多く機会が持てるように配慮している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了しても必要に応じてご家族からの相談をいつでも受けられるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけご本人の希望に沿う様にしているが、困難な場合はご本人の主体性を尊重しより良い決定が出来るようにしている。	
			(外部評価) 生活の中やカンファレンスで利用者の希望を確認し、出かけたい場所等を把握し実現に努めている。具体的に意向を伝えることが困難な状況にある利用者も多いため、日常のコミュニケーションや表情等を通じて気持ちをくみ取ったり、家族やこれまでの情報等を元に本人本位の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人、ご家族から生活歴を聞き、職員全員が把握しサービスに繋げる事が出来るよう努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりに経過表や行動チェック表等に記入し、日々の生活をチェックしている。 ご本人の出来る力を発見すると職員全員で情報を共有している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランを見直して、状況に応じモニタリングを行っている。管理者、主治医、ケアマネ、職員等でより良いサービス向上を目指し、ご家族にも出席してもらい話し合う機会を持っている。	
			(外部評価) 担当制を持たず、職員全員で利用者を把握している。ミニカンファレンスでは「気づき用紙」を活用し、職員がそれぞれに思う課題等の発見を持ち寄っている。全職員で話し合った内容や利用者及び家族等の意見を踏まえて介護計画を作成している。また、実施内容についてはチェック表に記録し、根拠あるモニタリングへつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 経過表や検温表を記入し、ケア行動計画の実施状況を毎日チェック、評価する事で状態変化をすぐに察知している。 特別変化のある時は日誌に記入して申し送りをし、諸君間で情報を共有している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけ一人ひとりの希望に沿う様に工夫して行っている。柔軟な支援やサービスを出来るようにしている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 利用者個人個人の生活のスタイルや生活環境を聞き、職員全員が把握し、地域の行事に参加するなどしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 母体が診療所である為、主治医及び協力医療機関への 連携体制が確立されており、月に2回の主治医の訪問 診察で利用者個々の健康状態を把握している。	
			(外部評価) 利用者は、運営法人の医療機関をかかりつけ医とし、 月2回の往診と24時間体制での医療連携は、緊急時 にも安心できる。専門医等への受診は家族の協力のも と支援し、家族が同行できない時は介護タクシーを利用 するなどの対応をしている。運営法人の医療機関に 準じた日々細やかな健康管理が徹底され、受診時に日 頃の様子を詳細に伝えることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 当院の看護師も利用者の健康状態を把握している。緊 急時には迅速に対応することが出来、医療面で支援で きる体制にある。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 常に医療連携が取れているので、迅速に対応するこ とが出来、情報交換もスムーズに行えるように介護要約 書にて報告をし、電話にて常に連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 入居時に利用者や家族に説明し、意向を取り入れられ るように方針を立てながら毎日の容態を記したものを 1週間ごとに家族へ報告している。また、看取り介護 の同意書を得ると、主治医や管理者、ケアマネ、職員 及び家族で話し合い、チームでの支援に取り組んでい る。	
			(外部評価) 看取りケアについては、入居前に意向を把握してお り、「重度化した場合における対応に関する指針」を 整備し対応している旨の説明をしている。また、状態 の変化に応じて利用者や家族等と意向を確認し、医療 機関と連携しながらチームでの支援に取り組んでい る。終末期のケアについて非常にデリケートな課題で あることを意識した取組みとなっており、今後も学び の機会を重ねながら真摯な姿勢で臨みたいとしてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 急変や事故発生時に備えて適切な初期対応や応急手当が出来るように職員全員が定期的に講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月通報訓練を行い、職員全員が災害時に対応できるように避難方法等を身につけている。半年に一度、消防署の協力の下、避難訓練を行っている。 (外部評価) 年2回の避難訓練は昼夜間を設定し、消防署立ち合いで具体的な助言を受けている。また、毎月の通報訓練は担当者を替え、誰もが緊急時に落ち着いて行動できるように取り組むことができている。事業所は平屋造りで避難経路を多く確保することができるが、重度化により車椅子利用者も多いことから、緊急時対応についての危機感があり、訓練の重要性を理解し取り組んでいる。	災害時に利用者や職員が安全に避難できるよう今後も訓練を継続させると共に、地域住民と連携が図れるように取り組んで欲しい。備蓄品について検討されているので早期に整備されるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人ひとりの人格を尊重し、常に気配りを行い、思いやりのある対応を心がけている。個人情報取り扱いには同意書を取り、書類等も適切に保管している。 (外部評価) 個人情報の取り扱いについて家族に説明し同意書を取るようになっている。利用者の呼び方は本人から希望を伺っており、馴染みある声かけで落ち着いた生活ができるよう配慮しているほか、対応について気になる職員については管理者が指導している。また、事業所内及び外部研修で接遇に関する学びの時間を設け、利用者一人ひとりを尊重した声かけや対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の個々の思いや希望に耳を傾け、したいことや好きな事をケアプランに盛り込み、日々楽しく過ごしてもらえよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) その人らしい暮らしが出来るように、一人ひとりの生活の様子を観察し、希望に沿った支援が出来るように心がけている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) その人らしいみだっしなみやおしゃれが出来るように希望に合わせて対応している。自力で出来葉い利用者は職員が対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 管理栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成し、四季の行事に対応した献立も取り入れ、食事を楽しむことが出来るよう心がけている。	
			(外部評価) 運営法人の医療機関の管理栄養士が栄養バランスの良い献立を作成し、食材は法人で一括購入している。また、管理栄養士は運営推進会議に出席し、利用者の状況を理解しており、ユニット毎に調理され職員と一緒に食卓を囲むことで和やかな時間となっている。また、地域の市場等に出かけおやつ等の軽食で時間を費やすこともあり、利用者の楽しみとなっているため、このような機会を増やすことを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 管理栄養士が栄養バランスの取れた献立を作成し、個人別に食事摂取量や水分量を記録し、一日を通して摂取量が確保できるようにしている。食事量の少ない場合は栄養価の高い飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じた口腔ケアを行っている。 自力で出来ない利用者は職員が介助している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 利用者の状態を把握し、介助が必要などところを見極めて行う。 排泄の時間などは記録を行い、対応している。	
			(外部評価) 利用者の食事量、水分量、排泄記録等と共に個々の排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレでの自然排泄ができるよう自立に向けた支援に努めている。また、重度化しおむつを使用している利用者には、適切な排泄用品の選択や介助方法を検討することで、不快な思いを与えないよう対応することができおり、排泄ケアについては年間研修計画に組み込まれ、適切な対応ができるよう学んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、利用者一人ひとりの状態によって排便コントロールを行っている。食事、飲み物等には気を付け、運動不足にならないようにしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の状態に合わせて臨機応変に対応している。拒否が見られる時などは時間を空けたり、翌日に変更をしている。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽を備え、リフトを設置しているユニットが1つある。週3回の入浴を基本としながら、利用者の状態に応じてリフトを活用したり希望に沿う支援ができている。また、入浴が苦手な利用者にも、無理強いすることなく、入浴のタイミングや声かけに工夫しながら入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息が取れるように居室やホール内をオープンにしている。夕食前に軽く体操をするなどして、気持ちよく眠られるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 誤薬等を防ぐため、職員が服薬管理を行っている。薬剤情報がいつでも見られるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方には洗濯物を畳んでもらったり、車椅子の方にも食事前にテーブルを拭いてもらうなど、出来る事をして頂き役割を持てるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に沿ってご家族との外出も自由にしてもらっている。地域の行事にも参加するようにしている。毎月方手薬師の参拝も支援している。天気の良い日は職員を散をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議で得た地域情報は積極的に活用し、できる限り地域に出かける機会を設けている。事業所周辺の散歩には定期的に出かけ、毎月のお寺への参拝は恒例行事で継続されている。また、外出先には地域施設を活用しており、地域の人々と交流しているほか、家族の協力を得ての外出や外泊等の支援もできている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者と一緒にお買い物に行き、ご本人が欲しい物を買われる際に支払いをしている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は電話をしてもらっている。友人からかかってくることもある。毎年年賀状や暑中見舞いの葉書をGHからご家族に送っている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を感じてもらえるように、季節の花などを飾っている。壁にも季節の飾りつけをしている。 共有スペースで寛いでもらえるように音楽をかけたり、自分の家にいるような雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) それぞれのユニットに玄関があり、各リビングは可動式の間仕切りで仕切られているが、行事等がある場合は、活用目的に応じて大空間へと変えることができる。感染予防対策として衛生管理には配慮しており、食器の取り扱いや清掃、温度湿度の管理に気をつけている。また、ソファ席を設け、居心地良い場所で思い思いにくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自室とホールを行き来できるような配置になっており、利用者一人一人が好きな場所、落ち着いた場所で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の趣味の物、好みの物に囲まれて暮らせるように以前から使用していた愛着のあるものをホームでも使用してもらっている。 (外部評価) ベッド、タンス、エアコンが備えられており、馴染みのものを持ち込み安心して居室を利用してもらえるよう配慮している。また、他の居室が気になったりする利用者にも職員が寄り添いながら、落ち着いて生活することができるよう支援している。利用者は、家族写真や家具等それぞれ思い入れのあるものを持ち込み、居心地良いスペースを確保し生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの出来る事を見つけ、それを維持できるように職員間で話し合いケアプランを作成している。	

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3891500054
法人名	医療法人 辻井循環器科内科
事業所名	グループホームはあと
所在地	東温市田窪2054-1
自己評価作成日	平成 27年 10月 31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 27年 12月 4日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

健康管理が行き届いている。
職員が真面目に努力し、精一杯対応していて好感が持てる。
精神面・健康面をトータルでサポートしてくれる。
家庭的でさびしくなく、穏やかに過ごされている。
環境も良く落ち着いた雰囲気もあり明るいホームである。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

私鉄電車の最寄駅を挟んだ母体法人の病院近くに開設され4年目を迎えた。事業所周辺は神社や寺の多い歴史ある地域で、近くの寺院で毎月開催される縁日への参拝は恒例外出行事となっている。協力医療機関でもある母体病院と、系列グループホームの相互協力により運営されている。周辺に住宅は住宅地ではないが、運営推進会議を活用して地域からの理解が得られるよう努めている。また、看取り経験も多く、24時間体制での医療連携や緊急時の迅速な対応は心強い。今後も、これまでの経験を活かし真摯な姿勢で取り組んでいく方針である。年間計画に沿った事業所内研修を充実させており、外部研修へも積極的に参加することで学ぶ機会を多く取り入れ、職員教育に力を注いでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホームはあと

(ユニット名) B館

記入者(管理者)
氏名 光田 陽子

評価完了日 平成 27年 10月 31日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 一人ひとりの気持ちを大切にし、日々健康管理を行っている。地域の行事に参加している。	
			(外部評価) 法人理念を職員の話し合いで見直し、「共に生きる、一人ひとりの気持ちを大切に、きめ細やかな健康管理、地域の交流を大切にする」とした。入職時に管理者から説明され、日々の業務や毎月のミニカンファレンスで共有されている。理念を中心に全職員が同じ方向を向いて実践できるように意識統一され、理念の中から課題を見出し特化した取組みを実践したり、年間の振り返りを持つことで次年につなげる意欲的な運営ができています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事、イベントなどに積極的に参加している。	
			(外部評価) 事業所近隣は商業施設が多く、ご近所付き合いには困難な面もあるが、地道な活動を継続させている。今年度は地域交流を広めることを課題とし、運営推進会議の参加者に協力を得ることで改めて事業所の運営に理解を求めることができた実感している。外出時には地域施設を活用したり、地域行事に積極的に参加することで交流が広がっている。今後も事業所としてできることに取り組みながら、相互協力関係を深めていきたいと望んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 見学希望の方や認知症に関しての対応、相談などを受けられるようにしていく。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 2カ月に1度行っている。民生委員の方や区長、利用者 のご家族に参加して頂いている。	
			(外部評価) 利用者家族、地域区長、民生委員、地域包括支援セン ター職員、市担当者の参加がある。議題や行事に応じ て法人管理栄養士、製薬会社等の協力を得て、栄養管 理や家庭での医療等の講座を盛り込む工夫があり、有 意義な時間となっている。事業所での生活や認知症状 の理解を得るために、菓子作り等の作業を利用者と共 に行うことで体感してもらっている。率直な意見交換 や地域情報交換ができており、運営に反映させること でサービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 行事やイベントなど積極的に参加している。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員には運営推進会 議への参加を得ている。推進会議の機会を活用し、実 情を伝えたり情報を発信してもらっている。また市や 地域包括支援センターが企画する研修会へ積極的に参 加することで運営に反映させたり、他事業所との交流 の場としても良い機会とされている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) やむを得ず一部の利用者にはつなぎやミトンをしてい る。事前に家族に十分に説明し、理解と同意を得てい る。	
			(外部評価) 弄便や胃ろう破損等の行為のある利用者には、主に夜間 帯等の限られた時間帯でつなぎ服やミトンの使用があ る。事業所裏は郊外電車の駅で、安全を考慮し居室窓 やユニット間等の施錠がある。事業所では身体拘束に 関する勉強会を開催し、繰り返し学びの機会を設ける ことで正しい理解へとつなげる努力をしている。現状 について家族や医師と話し合い同意を得ている。	正しい理解を深めるために繰り返し学びの機会を持つ 努力ができています。現状について期間や代替策、見守 り等ケアの見直しをその都度行い、拘束を必要としま ないケアへとつなげてほしい。今後も定期的に利用者の 自由な暮らしとは何か職員間で話し合いや勉強会の機 会を通じ理解を深めて欲しい。

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修などに参加し、研修内容を全員把握している。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 研修に参加し、把握できるようにしていく。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 管理者、又は職員が説明を行っている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) カンファレンス、または運営推進会議など家族の要望や意見を聞く機会を設けている。	
			(外部評価) 利用者には日常の会話の中で意向を聞いている。家族等とは推進会議やカンファレンス参加時や面会時、電話連絡等の機会を利用して意見や要望を聞いている。事業所では新聞を定期的に発行し、利用者の日常生活ぶりや行事報告、職員の研修参加等学びの様子を家族等に伝え、理解が得られるように努めている。家族等からは率直な意見や苦情が聞かれることもあり、思いを真摯に受け止めすぐに対応することを心がけている。職員間で話し合いの機会を設けたり、介護計画に反映しケアの改善を行ったり、運営に活かすことができている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) ミーティング等で職員の意見を管理者に聞いてもらっている。	
			(外部評価) ミーティングや日々の申し送りで職員は意見を出し合っている。管理者もシフトに入っているため、職員意見等については理解しており、業務相談に乗ったり気になる職員へはその都度声かけしている。また事業所内で解決しにくい運営課題については法人施設長に相談することができている。年間研修計画に沿い、積極的に学びの機会を設けることで職員のスキルアップが図れるように工夫している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) お互いに協力して業務が行えるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修に参加し、全員がレポート提出している。レポートはいつでも閲覧できるようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修参加時等に意見交換を行っている。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) ご本人の話や要望を出来る限り聞き取りし、対応できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 管理者、ケアマネ、現場の職員と家族間で随時モニタリングを行い、ご家族の不安や心配事を聞き取るようにしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご家族の質問や相談には出来る限り迅速に対応できるようにしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 生活全般にお手伝いという形で協力して頂いている。一緒に洗濯物を畳んだり、掃除をしてもらうなどしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご本人を良く知る為に話しかけをし、話を聞いてあげる事で信頼感件が生まれご本人の生活を支えられるように努めている。 毎月1回生活状況ご家族に手化紙で報告している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご本人やご家族から生活歴を聞き、馴染みの人や場所等の関係が途切れないようにしている。	
			(外部評価) 利用者が大切にしてきた関係について、利用者本人や家族等から情報を聞き取り、職員間で共有することにより把握し、関係を断ち切らない支援へとつなげている。家族の協力を得て外出や自宅に帰る利用者もいる。近くのお寺への参拝や生活歴、家族関係等に配慮した支援ができています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの性格を把握しより良いコミュニケーションをとれるようレクやゲームをしたり、毎月誕生会をしたりと利用者全員との触れ合いを設けている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービスが終了してもアフターフォローをし、いつでも相談に乗れるようにしている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 出来るだけご本人の要望に沿う様にしている。困難な場合はご本人の主体を尊重し、より良い決定が出来るよう助言している。 会話が困難な利用者についてはご家族などから情報を得てご本人の立場にたって考えるようにしている。	
			(外部評価) 生活の中やカンファレンスで利用者の希望を確認し、出かけたい場所等を把握し実現に努めている。具体的に意向を伝えることが困難な状況にある利用者も多いため、日常のコミュニケーションや表情等を通じて気持ちをくみ取ったり、家族やこれまでの情報等を元に本人本位の視点に立って検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) ご本人ご家族から生活歴を聞き、職員全員で把握しサービスに活かしている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 一人ひとり経過表、行動チェック表などに記入し、日々の生活を記録している。 ご本人の心身状態に変化が見られた場合はすぐにリーダーに報告をし、触診全員に申し送りをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 定期的にケアプランを見直している。状態によってモニタリングを行い、管理者、主治医やケアマネ、職員等でより良いサービスの向上を目指している。ご家族も出席して話し合う機会を持っている。	
			(外部評価) 担当制を持たず、職員全員で利用者を把握している。ミニカンファレンスでは「気づき用紙」を活用し、職員がそれぞれに思う課題等の発見を持ち寄っている。全職員で話し合った内容や利用者及び家族等の意見を踏まえて介護計画を作成している。また、実施内容についてはチェック表に記録し、根拠あるモニタリングへつなげている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 毎月1回は気づき用紙を記入し、職員でプランを話し合っている。 職員はケアプランを毎日チェックしている。 介護計画は利用者の状態により、その都度見直している。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 出来るだけご本人の希望に沿う様にしている。 柔軟な支援やサービスが出来るように取り組んでいる。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 日々の生活からご本人の生活環境などを把握し、本人らしく生活できるよう、出来る限り行事等に参加できるようにしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 月に2回、主治医の訪問診察があり、利用者個々の健康 状態の把握に努めている。 主治医及び協力医療機関への連携体制が確立されてい る。	
			(外部評価) 利用者は、運営法人の医療機関をかかりつけ医とし、 月2回の往診と24時間体制での医療連携は、緊急時 にも安心できる。専門医等への受診は家族の協力のも と支援し、家族が同行できない時は介護タクシーを利用 するなどの対応をしている。運営法人の医療機関に 準じた日々細やかな健康管理が徹底され、受診時に日 頃の様子を詳細に伝えることができている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 病院内の看護師も利用者の事を把握しているので医療 面でも支援できる体制にある。 夜間緊急時にはすぐに電話連絡をし、相談、指導を受 けている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時は情報交換がスムーズに行えるように介護要約 書にて報告をし電話にて常に連絡を取り合っている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合 いを行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 主治医や管理者、ケアマネ、職員及びご家族で話し合 い、ご本人の意向を取り入れられるよう方針を立てて いる。また、看取り介護の同意書を得ると毎月の容態 を記したものを1週間ごとに御家族に報告している。	
			(外部評価) 看取りケアについては、入居前に意向を把握してお り、「重度化した場合における対応に関する指針」を 整備し対応している旨の説明をしている。また、状態 の変化に応じて利用者や家族等と意向を確認し、医療 機関と連携しながらチームでの支援に取り組んでい る。終末期のケアについて非常にデリケートな課題で あることを意識した取組みとなっており、今後も学び の機会を重ねながら真摯な姿勢で臨みたいとしてい る。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 緊急時は適切な医療が受けられるように職員全員が講習を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月職員が通報訓練を行っている。 半年に1度、消防署の協力の下、避難訓練を行っている。 (外部評価) 年2回の避難訓練は昼夜間を設定し、消防署立ち合いで具体的な助言を受けている。また、毎月の通報訓練は担当者を替え、誰もが緊急時に落ち着いて行動できるように取り組むことができている。事業所は平屋造りで避難経路を多く確保することができるが、重度化により車椅子利用者も多いことから、緊急時対応についての危機感があり、訓練の重要性を理解し取り組んでいる。	災害時に利用者や職員が安全に避難できるよう今後も訓練を継続させると共に、地域住民と連携が図れるように取り組んで欲しい。備蓄品について検討されているので早期に整備されるよう期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 常に気配りを行い、利用者のプライバシーを尊重し、思いやりのある優しい言葉遣いで接するように心がけている。 (外部評価) 個人情報の取り扱いについて家族に説明し同意書を取るようにしている。利用者の呼び方は本人から希望を伺っており、馴染みある声かけで落ち着いた生活ができるよう配慮しているほか、対応について気になる職員については管理者が指導している。また、事業所内及び外部研修で接遇に関する学びの時間を設け、利用者一人ひとりを尊重した声かけや対応ができるよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者の個々の意見に耳を傾け、ご本人の好きな事やしたい事をケアプランに盛り込み、日々楽しく過ごしてもらえよう取り組んでいる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人ひとりに生活を様子観察し、その人に合った暮らしが出来るように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 利用者の希望に合わせて対応している。自力で出来ない利用者は職員が対応している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者に希望を聞いて無理を押し付けることなく楽しく食事の雰囲気が出来るように心がけている。	
			(外部評価) 運営法人の医療機関の管理栄養士が栄養バランスの良い献立を作成し、食材は法人で一括購入している。また、管理栄養士は運営推進会議に出席し、利用者の状況を理解しており、ユニット毎に調理され職員と一緒に食卓を囲むことで和やかな時間となっている。また、地域の市場等に出かけおやつ等の軽食で時間を費やすこともあり、利用者の楽しみとなっているため、このような機会を増やすことを検討している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 個人別に水分、食事摂取量を記録し、1日を通して摂取量が把握できるようにしている。 食事量が少ない場合は栄養価の高い飲み物をお勧めしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 利用者の状態に応じ口腔ケアを行っている。 スポンジクリーナーや舌ブラシなど、それぞれに合ったものを使用し、自力で出来ない利用者は職員が介助している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) プライバシーには十分配慮し、ご本人の出来る力に合わせた排泄の支援を行っている。 排泄時間を記録し、対応している。	
			(外部評価) 利用者の食事量、水分量、排泄記録等と共に個々の排泄パターンを把握し、トイレやポータブルトイレでの自然排泄ができるよう自立に向けた支援に努めている。また、重度化しおむつを使用している利用者には、適切な排泄用品の選択や介助方法を検討することで、不快な思いを与えないよう対応することができおり、排泄ケアについては年間研修計画に組み込まれ、適切な対応ができるよう学んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 主治医に相談し、一人ひとりの状態に応じ排便コントロールをしている。飲み物や食材を工夫し、ラジオ体操等の運動を行っている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者の希望に沿って臨機応変に対応している。状態不安定な利用者や拒否がある知己は時間をおいたり翌日に変更したりと無理のないように対応している。	
			(外部評価) ユニット毎に個別浴槽を備え、リフトを設置しているユニットが1つある。週3回の入浴を基本としながら、利用者の状態に応じてリフトを活用したり希望に沿う支援ができている。また、入浴が苦手な利用者にも、無理強いすることなく、入浴のタイミングや声かけに工夫しながら入浴できるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) いつでも休息が取れるように居室やホール内をオープンにしている。夕食前に睡眠体操を行い、安眠を誘っている。昼夜逆転にならないように生活のリズムに気を付けている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) ADLの低下に伴い、職員が管理し服薬支援を行っている。 薬剤情報がいつでも見られるように保管している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 家事の好きな方は洗濯畳みや洗い物などのお手伝いをしてもらっている。読書が好きな方はいつでも雑誌や新聞等が読めるようにしている。カラオケをいつでも利用できるようにしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) ご本人の希望に沿ってご家族との外出も自由にしてもらっている。地域の行事にも参加するようにしている。毎月方手薬師の参拝も支援している。天気の良い日は職員を散をしている。	
			(外部評価) 運営推進会議で得た地域情報は積極的に活用し、できる限り地域に出かける機会を設けている。事業所周辺の散歩には定期的に出かけ、毎月のお寺への参拝は恒例行事で継続されている。また、外出先には地域施設を活用しており、地域の人々と交流しているほか、家族の協力を得ての外出や外泊等の支援もできている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 利用者と一緒に買い物に行き、ご本人が好きなおやつなどを選び支払いをしてもらっている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 利用者の希望がある時は電話をしてもらっている。友人からかかってくることもある。毎年年賀状や暑中見舞いの葉書をGHからご家族に送っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 季節感を感じてもらえるように、季節の花などを飾っている。壁にも季節の飾りつけをしている。 共有スペースで寛いでもらえるように音楽をかけたり、自分の家にいるような雰囲気づくりに努めている。 (外部評価) それぞれのユニットに玄関があり、各リビングは可動式の間仕切りで仕切られているが、行事等がある場合は、活用目的に応じて大空間へと変えることができる。感染予防対策として衛生管理には配慮しており、食器の取り扱いや清掃、温度湿度の管理に気をつけている。また、ソファ席を設け、居心地良い場所で思い思いにくつろぐことができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 自室とホールを行き来できるような配置になっており、利用者一人一人が好きな場所、落ち着いた場所で過ごせるようにしている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 利用者の趣味の物、好みの物に囲まれて暮らせるように以前から使用していた愛着のあるものをホームでも使用してもらっている。 (外部評価) ベッド、タンス、エアコンが備えられており、馴染みのものを持ち込み安心して居室を利用してもらえるよう配慮している。また、他の居室が気になったりする利用者にも職員が寄り添いながら、落ち着いて生活することができるよう支援している。利用者は、家族写真や家具等それぞれ思い入れのあるものを持ち込み、居心地良いスペースを確保し生活している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 利用者一人ひとりの出来る事を見つけ、それを維持できるように職員間で話し合いケアプランを作成している。	